いきごみ通信

第７号　2010 年 3 月 31 日
江戸川区生ごみ堆肥化実践クラブ
〒132-0033 江戸川区東小松川 3-35-13-204
電話・Ｆａｘ　03-3655-1387
ホームページ：http://www.ikigomi.jp/

52名が参加したバス見学会
NPO緑の会訪問、手賀沼の船上視察

２月 17 日（水）

午前の見学　取手市　かたらいの郷、常総環境センター取手事業所
　　我孫子市に移動して天然温泉満天の湯で昼食・道の駅
午後の見学　我孫子市　手賀沼船上視察

毎年２月の行事として定着しつつある生ごみ堆肥の先進地見学会、今年は茨城県取手市の NPO 緑の会を訪問、続いて隣接する千葉県に移動して天然温泉満天の湯で昼食・道の駅での買物、さらには水質浄化が進む我孫子市の手賀沼を船上視察という盛りだくさんの見学会となりました。

朝９時葛西駅から 13 名の参加者を乗せたバスは、一之江、小岩と合わせて 52 名、途中休憩を取りながら２時間ほどで取手市に到着しました。午前は NPO 緑の会の生ごみリサイクル活動拠点となっている常総環境センター取手事業所を見学、午後は千葉県我孫子市の手賀沼を船で巡りながら水質浄化の取り組みや現在の手賀沼の状況について伺いました。

ＮＰＯ緑の会訪問

最初に訪問したかたらいの郷では、緑の会の恒川理事長始めスタッフの皆さまが出迎えて下さり、活動の様子をビデオを見ながらご説明いただきました。続いて常総環境センターに移動して、生ごみ堆肥化の現場を見学。工場では一般家庭 1250 世帯から集めた生ごみを堆肥化する作業が行われていました。

かたらいの郷・・・ビデオ学習

生ごみはベルトコンベアに乗せて粉砕機へ

専用のバケツに入れて回収された生ごみはベルトコンベアに乗せて粉砕機に投入、細かくされた生ごみは戻し堆肥・もみ殻・EM ぼかしなどを混ぜてメッシュパレット（緑のかご）に入れて発酵・熟成、4 カ月半ほどかけて堆肥化させていました。工場は想像していたよりも小規模でシンプルな設備でしたが、堆肥は良く発酵していて蒸気が上がり、触ってみるとかなり熱くなっていました。70 度くらいまで上がるとのことでした。

発酵中の堆肥からあがる蒸気

満天の湯

満天の湯･･･地元食材を使った昼食

この日の楽しみの一つは、満天の湯での地元食材を使った昼食と天然温泉。足湯や道の駅も近くにありましたが、制限時間は 2 時間です。食事以外にどれを楽しむかはそれぞれで、温泉にゆっくりつかった方、道の駅で持ち切れないほどの買い物をした方、またあわただしく両方を楽しんだりといろいろでしたが、2 時間後バスのトランクは荷物で埋まっていました。

手賀沼船上視察

我孫子市役所が 2 艘の船をチャーターして、水質浄化が進んでいる手賀沼を案内して下さいました。

船上では市役所手賀沼課の担当の方から、高い透明度を誇っていた時代、強い悪臭とアオコの異常発生で日本一汚濁した湖沼という不名誉が続いた時代（現在は８位）、そして今日ではトライアスロンが行われるまでになった浄化への取り組みについて伺いました。

船内で説明を聞く参加者

船に乗り込む参加者

汚濁の大きな原因は 30 年代の生活排水との説明を受け、河川を汚すのはわずかな歳月で、浄化がいかに長く大変な道のりであることかあらためて教えられ、環境問題への取り組みは足元から、そして気付いた人から始めなければとの思いを強くした見学会でした。

手賀沼のほとりで記念撮影

手賀沼一口メモ

多種多様な生物が暮らし、自然の宝庫だった手賀沼、志賀直哉や武者小路実篤など文人が沼畔に住み、北の鎌倉と呼ばれた時代もありました。

水質汚濁が進んだ昭和 30 年代以降、魚介類は 22 種類、鳥類は約 47 種類に激減し植物に至っては5･6 種類しか見ることが出来なくなってしまいました。

現在の手賀沼は 6 月ごろにはハスの花が咲き、夏の盛りには花火大会が行われています。